

平成30年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや少	やや少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	少	少
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや多	やや多
たまねぎ	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	やや少	やや少
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	べと病	並	並
	コナガ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.6%(1.3%)、発生圃場率は33.3%(24.0%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.9%(3.1%)、発生圃場率は33.3%(44.7%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.7%)、発生圃場率は8.3%(12.9%)であった。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.8%、発生圃場率19.6%)。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.1%(0.8%)、発生圃場率は8.3%(20.6%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.5%(0.3%)、発生圃場率は33.3%(21.1%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、果実および葉での発生を認めなかった(発病果率0.0%、過去5か年 発生葉率0.3%、過去5か年 発生圃場率16.7%)。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は2.2%(過去8か年 0.8%)、発生圃場率は33.3%(同 29.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫はウイルス病を媒介するので、黄色粘着版等で発生状況を把握し、早期防除に努める。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤(平成30年長崎県病害虫防除基準P184~187)の「作用機構による分類(IRAC)参照」をローテーション散布する。

ウ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.0%、発生圃場率0.8%)。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は3.0%(10.0%)、発生圃場率は42.0%(50.0%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発病果率0.0%、発生圃場率5.1%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は11.1%(8.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 夜間は暖房機を断続的に稼働し、曇雨天や気温が低い日もできるだけ換気を行うなど、ハウス内が多湿にならないような管理に努める。

イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出して

適正に処分する。

ウ 過繁茂は果実周囲が多湿になりやすく発病を助長するので、肥培管理を適切にする。

エ 果実では、本病原菌はまず枯死した花弁や雌しべの柱頭に感染した後、果肉に侵入する。そのため、「さちのか」に比べ花弁が落ちにくい「ゆめのか」では、咲き終わった花弁は極力除去する。

オ 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天が続く場合はハウス内湿度が上がるのを防ぐため、くん煙剤を利用する。

カ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.3%(1.1%)、発生圃場率は18.5%(12.7%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.2%(5.0%)、発生圃場率は25.9%(39.3%)であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病株率は1.9%(4.0%)、発生圃場率は27.3%(20.1%)であった。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.5%、発生圃場率2.1%)。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生株率は2.5%(1.8%)、発生圃場率は54.5%(16.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、早期発見に努め若齢幼虫期に防除を行う。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

なお、ジアミド系薬剤で効果が低い個体群が県内で確認されているため、殺虫効果

- の低下が疑われる場合は別系統の薬剤を散布する。
- ウ 今後定植する場合は、育苗トレイでの灌注や粒剤の株元処理等による防除を行う。
 - エ 発生が多い圃場は、周辺圃場への発生源になるため、収穫終了後は残渣を速やかに処分する。

【参考】

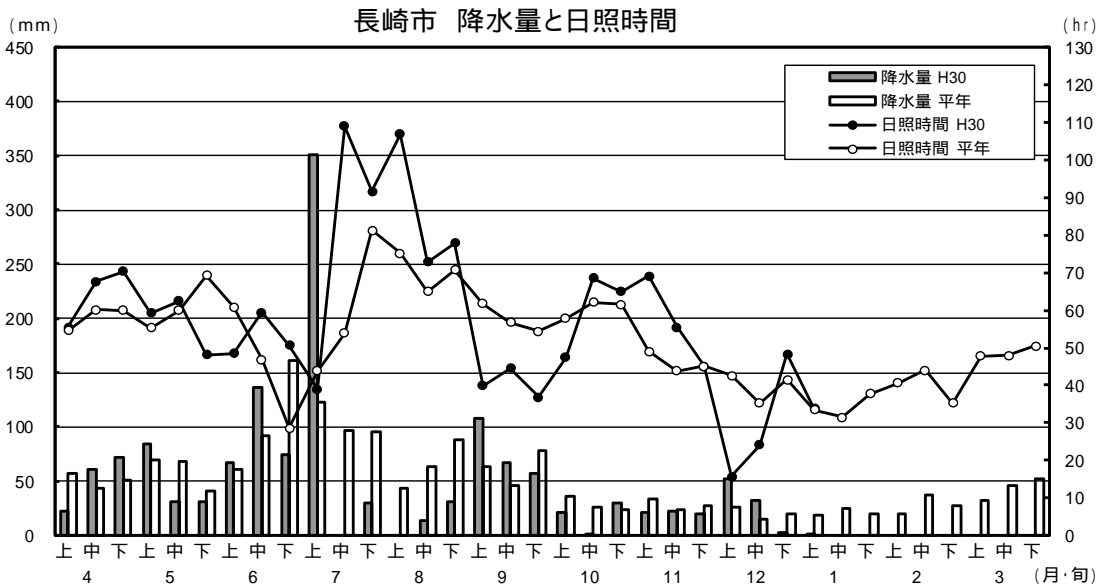
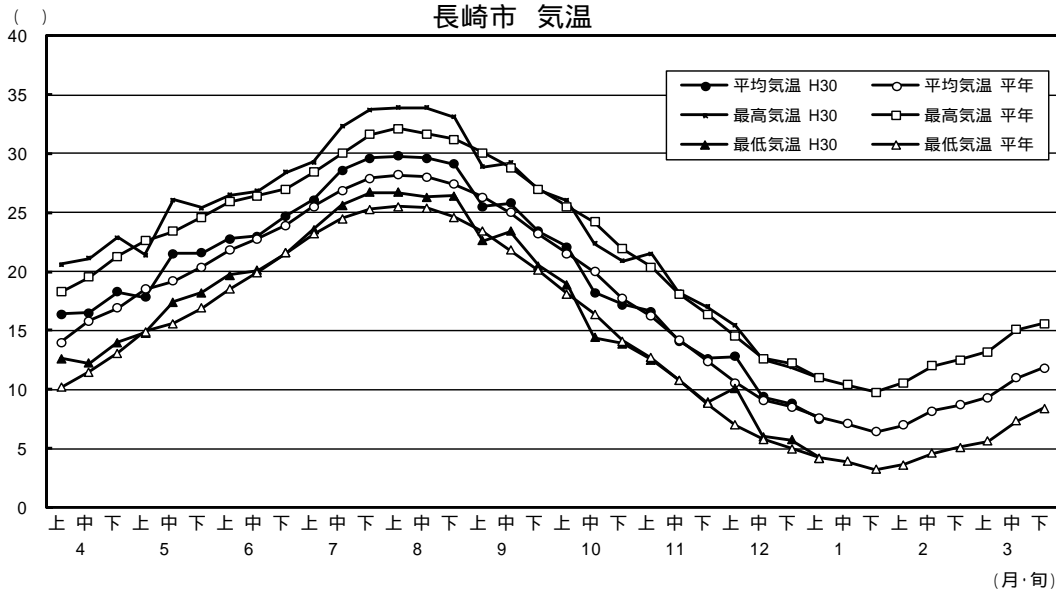
気象 (平成31年1月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

予報対象地域：九州北部地域

平成30年度の気象経過 (長崎地方气象台)



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

